

モンゴルにおける自計式農家経済簿普及のための 現金現物日記帳の改良について

—小麦栽培農家への聞き取り調査に基づく—

古塚秀夫¹, ガンボルド・サランチメグ²,
バトジャラガル・オドノチメグ³, サムダンフー・オユンチメグ⁴, 安延久美⁵

Improvement of Cash Transaction Book for Dissemination “Self-accounting
Bookkeeping Systems” for Family Farms in Mongolia : Based on an Interview
Survey for Wheat Growers

Hideo Furutsuka, Saranchimeg Ganbold,
Odonchimeg Batjargal, Oyunchimeg Samdankuu and Kumi Yasunobu

要旨：本研究の目的は、モンゴルにおける小麦栽培農家に適した簿記様式と帳簿形式を検討すること、さらに、記帳結果の集計方法、経営分析方法について検討することである。そして、この農業簿記を小麦栽培農家に普及させて、記帳結果に基づいて農家経済分析を行って、農家所得の増加につなげることである。

この目的のために、小麦栽培農家29戸に対して聞き取り調査を実施して小麦栽培農家の取引を中心とした特徴を明らかにした。さらに、この聞き取り調査の結果に基づいて、小麦栽培農家に適した「小麦栽培農家経済簿」を考案した。現在、「小麦栽培農家経済簿」を小麦栽培農家に普及している。

ABSTRACT : Demand for domestic wheat cannot be satisfied in Mongolia. For this reason wheat imports are increasing. Under such circumstances it is important to grasp the actual condition of wheat farmers. However, there is no agricultural bookkeeping to grasp the actual condition of farmer economy and agricultural management regarding family farm.

Also, few studies on agricultural book keeping. For this purpose, this study aims to examine bookkeeping format and bookkeeping style suitable for Mongolian wheat family farm. Furthermore, we will examine how to compile booking results and management analysis method. We will to disseminate agricultural bookkeeping practices of wheat family farm and carry out family

¹ 就実大学経営学部 〒703-8516 岡山市中区西川原1-6-1

² 鳥取大学大学院農学研究科院生（2017年現在） 〒680-8553 鳥取市湖山町南4-101

³ 国立モンゴル生命科学大学

⁴ 国立モンゴル生命科学大学

⁵ 鳥取大学農学部 〒680-8553 鳥取市湖山町南4-101

economic analysis based on the results of book entry to increase farms income.

キーワード：モンゴルの農業簿記，小麦栽培農家のための自計式農家経済簿，農家経済分析

KeyWords : agricultural book keeping of Mongolia, self-accounting book keeping system for wheat family farm, economic analysis of family farm

緒言

モンゴルは、1990年代に入り社会主義から市場経済に移行した。このことに伴って、農業の主要な生産者が、国営農場から民間の農場に移行した。このような状況下で、民間の農場に対する国からの支援は実施されず、このために農業生産が減少した。1991年以降、小麦栽培では収穫量が減少を続けて、2007年には耕地面積11.8万ha（1989年83.8万ha）、収穫量10万トン（1989年68.9トン）となった。2008年に政府は農業を支援する政策を実施した。その結果、農業生産は徐々に回復している。すなわち、2016年において、小麦栽培は耕地面積35.5万ha、収穫量46万トンとなっている。収穫した小麦の用途は小麦粉、種子、飼料、軍用品などであるが、このうち小麦粉の需要は32万トンであり、これを国内生産で満たすことができない。このために小麦粉の輸入量は増加傾向を示している。すなわち、2011年7,300トンから2015年2万1,000トンまで増加している。

このような現状では、主食である小麦の生産を振興させて、食料自給率を向上させる必要がある。このためには、まず、小麦栽培農家の実態を把握することが重要である。しかし、家族経営に関して農家経済や農業経営の実態を把握する農業簿記は存在していない。また、農業簿記に関する研究は少ない。

そこで、本研究では、モンゴルにおける家族経営の小麦栽培農家（以下、小麦栽培農家と略す）に適した簿記様式と帳簿形式を検討することを目的とする。さらに、記帳結果の集計方法、分析方法について検討する。そして、この農業簿記を小麦栽培農家に普及させて、記帳結果に基づいて農家経済分析、農業経営分析を行って、小麦生産量と農家所得の増加につなげたい。

研究方法

研究方法は次のとおりである。第1に、既往の研究成果について検討する。第2に、モンゴルの小麦栽培農家に適した簿記様式、帳簿形式などを検討するために、小麦栽培農家に対して聞き取り調査を実施する。第3に、聞き取り調査の結果に基づき、簿記様式、帳簿形式、集計方法、分析方法を検討する。第4に、検討した農業簿記を小麦栽培農家に普及する。第5に、普及した農業簿記の改良点について、聞き取り調査を実施して農業簿記を改良する。

結果と考察

1. 既往の研究成果

まず第1に、自計式農家経済簿（以下、自計式簿記と略す）に関する研究成果のうち本研究に関連する研究成果として、次の3つがある。その1として、桂（1990）がある。桂（1990）は、現金現物日記帳の特徴として、次の3つを指摘している。すなわち、①全ての取引を現金取引に分解して現金現物日記帳に記録しながら、損益計算を行うこと、②現金現物日記帳の「残金」欄が収支計算の結果を示して、これが資金管理に有効と考えられること、③家計を含めた農家経済全体を記帳の対象としていること、である。このような指摘は家串（2015）においてもなされている。その2として、古塚（1993）がある。古塚（1993）は、単式簿記と自計式簿記および複式簿記の3つの簿記様式を比較検討して、自計式簿記をほかの2つの簿記の中間的存在と位置づけられることを明らかにしている。すなわち、「簿記の信頼性」と「記録の容易性」の2つの性格をもっているとしている。その3として、菊地（1986）がある。菊地（1986）は、現金現物日記帳月別集計表が記録結果を検証する試算表的な役割を果たすことを指摘している。本研究では簿記様式、集計方法の検討において、これらの研究成果を考慮したい。

第2に、複式簿記に関する研究成果であるが、城戸（1991）がある。城戸（1991）は、多たけ（多蘭）式仕訳帳について述べている。すなわち、取引が頻繁に発生する取引の勘定、例えば、現金、売上などの勘定科目について特別欄を設けることで、総勘定元帳への個別転記の手間が省けるとしている。しかし、特別欄を設けることのメリットは、これだけでなく、仕訳における勘定科目の記入を省けることもあると考えられる。本研究で帳簿形式を検討する場合に、この特別欄を考慮したい。

第3に、経営分析に関する研究成果である。とくに、家計経済部面の分析についてであるが、江見・伊藤（1997）がある。江見・伊藤（1997）は家計費について①経営規模が大きい農家では農業所得も大きく、それが家計費の増加につながり、生産物の家計消費も増大すること、②経済社会の変化（進学率の上昇に伴う教育費の増大など）は種々のかたちで家計費に影響することを及ぼしていることを明らかにしている。また、菊地（1986）は自計式簿記による分析指標について検討している。本研究では、この2つの研究成果に基づいて分析指標を検討する。

2. 聞取調査結果

第1に、調査地についてである。第1図に示すように、モンゴルの農業地域は5つに分けられる。2015年の地域別農地面積は次のとおりである。東部地域は10.4万ha、中部地域は56.9万ha、ゴビ地域は376ha、ハンガイ地域は4.4万ha、西部地域は2.2万haである。このうち最も小麦栽培が盛んな地域は中部地域であり、ここを調査対象とした。中部地域には5県があるが、第1表に示すように聞取調査は、2015年9月に3県6カ村で実施した。この聞取農家の抽出には、共同研究を行っている国立モンゴル生命科学大学の協力を得た。聞取調査を実施した小麦栽培農家は、29戸である。聞取調査は中央県を中心に行っているために中央県4カ村の調査農家割合が高い。経営規模と

して1戸当たり小麦栽培地面積をみると、ウクタル村を除く中央県のデータしかないが、全農家平均が71haであり、調査農家平均が83haである。この数値から判断して、調査農家がこの地域の小麦栽培農家を代表しているといえる。



第1図 農業地域区分

出所：モンゴルの農業省情報に基づき作成。

第1表 村別農家数と調査農家数（家族経営）

県名	村名	全農家（戸）	調査農家（戸）	割合（％）
中央県	ジャラガラント	38	7	18.4
	アラガラント	29	4	13.8
	ウクタル	34	3	8.8
	ツェール	37	12	32.4
ボルガン県	セレング	23	2	8.7
セレング県	ツァガンノル	53	1	1.9
合 計		214	29	13.6

出所：モンゴル農業省情報と聞取調査に基づき作成。

注：割合は全農家数に占める調査農家数の割合を示す。

第2に、聞取調査結果についてである。回答者は全て経営主（29戸）である。第2表に聞取調査結果を示している。その1として、①小麦栽培農家の経営概況についてである。小麦耕地面積では、「50ha～75ha」が11戸（37.9%）と最も多い（設問1）。この規模を中心に「25ha未満」から「100ha～300ha」まで、規模にバラツキがある。家族労働力を含む労働者数では「3人～6人」が15戸（51.7%）を占めている（設問2）。専兼業農家数では、兼業農家が17戸（58.6%）と最も多い（設問3）。これは次に述べる設問4、設問5と関連している。すなわち、小麦栽培（農業）だけでは生計を維持できないことを示している。

その2として、②小麦栽培の概況についてである。小麦栽培における年間収入額では、「250万円未満」が19戸（65.5%）と多い（設問4）。同じく年間支出額では、「250万円未満」が19戸（65.5%）と多い（設問5）。この収支と①経営概況の小麦栽培面積に基づいて判断すると、小麦栽培はファームサイズが大きい、ビジネスサイズが小さいといえる^{注1）}。

その3として、③小麦栽培の取引についてである。年間収入取引回数では、「3回未満」が24戸（82.7%）と最も多い（設問6）。販売の取引回数は多くない。（最も多い月）1ヵ月間の支出取引回数では、無回答を除いて「10回～15回」が4戸（25.0%）と最も多い（設問7）。支出取引は多い。未収入金では「未収入金がある」が5戸（17.2%）あり（設問8）。この未収入金は1年以上回収されない場合がある。次節ではこのことに注目したい。負債では「長短期負債がある」が21戸（72.4%）と多い（設問9）。設問4、設問5、設問8、設問9の回答に基づいて判断すると、小麦栽培農家には負債の返済に困る農家がいることが推察できる。

その4として、④簿記関連についてである。簿記の知識では「知識がある」が16戸（55.2%）、「知識がない」が13戸（44.8%）であり、前者は後者を上回っている（設問10）。しかし、本研究では、後者もかなり多いことに注目したい。記帳の実践では「現在記帳している」が16戸（55.2%）と最も多い（設問11）。しかし、記帳している理由では「経営状況を把握し、改善するため」は4戸（25.0%）と少ない（設問12）。また、記帳の手段（設問13）と簿記様式（設問14）の回答に基づいて判断すると、記帳は「手書きメモ」が16戸（100.0%）、「単式で収支を帳簿する」が16戸（100.0%）であり、収支計算に止まっていることが推察される。さらに、設問11では「現在記帳していないし、これからも記帳するつもりがない」が10戸（34.5%）と多いことに注目する必要がある。記帳していない理由では「面積が狭い」が7戸（53.8%）と最も多い（設問15）が、日本の北海道における小麦栽培農家の規模（2015年、6.4ha/戸）であるので狭くない。「面積が狭い」というのは企業経営や大規模小麦栽培農家と比較した場合と考えられる。次に「今までの経験から経営実態が把握可能」が5戸（38.5%）と多い（設問15）。経営改善を行うためには、損益計算と財産計算を行う必要がある。農業経営における取引の種類では、「現金取引」が29戸（100.0%）と最も多い（設問16）。しかし、掛売買取引23戸（79.3%）、振替取引21戸（72.4%）も「現金取引」に次いで多い。信用取引が普及していることがうかがえる。このことに注目したい。

第3に、簿記様式の検討についてである。上述した聞き取り調査結果をとりまとめると次のとおりである。小麦栽培農家は①小麦栽培だけで生計を維持できないために兼業農家が多いこと、②掛売による未収入金があり、これが1年以上回収されないケースがあること、③一部の小麦栽培農家は、長短期負債があるが、この負債は小麦栽培における収入だけでは返済が難しい農家がいること、④簿記知識がない小麦栽培農家が多く、また、簿記知識があっても単式簿記（現金出納帳程度）の知識で止まっていること、⑤現金取引のほかに掛売買取引、振替取引が多いこと、である。②と⑤については、次節において検討したい。①と③および④に基づいて簿記様式を判断すると、自計式簿記が最適である。すなわち、自計式簿記が次のような特徴をもつためである。この特徴とは、①兼業部門を含めた農家経済が記録計算の対象であること、②非現金取引を現金取

引に分解して記録するので簿記知識をあまり必要としないこと、③負債の返済と関連して、農家経済全体の資金の流れを把握することができること、である。本研究では、モンゴルの小麦栽培農家に適した自計式簿記として、小麦栽培農家経済簿（以下、小麦栽培自計式簿記と略す）を考案している（第2図参照）。

第2表 小麦栽培農家に対する聞取調査結果

設問					実数 (戸)	割合 (%)	設問					実数 (戸)	割合 (%)
① 経営概況	1. 小麦耕地面積	25ha未満	4	13.8	④ 簿記関連	10. 簿記の知識	知識がある	16	55.2				
		25ha～50ha	6	20.7			知識がない	13	44.8				
		50ha～75ha	11	37.9			合計	29	100.0				
		75ha～100ha	2	6.9		11. 記帳の実践	現在記帳している	16	55.2				
		100ha～300ha	6	20.7			現在記帳していないが、これから記帳するつもりである	2	6.9				
	合計	29	100.0	以前簿記記帳していたが、これから記帳するつもりはない			1	3.4					
	2. 労働者数	3人未満	6	20.7			現在記帳していないし、これから記帳するつもりはない	10	34.5				
		3人～6人	15	51.7			合計	29	100.0				
		6人～9人	7	24.1		12. 記帳している理由	経営状況を把握し、改善するため	4	25.0				
	9人～12人	1	3.4	無回答			12	75.0					
合計	29	100.0	合計	16	100.0								
② 小麦栽培の概況	3. 専業農家数	専業農家	12	41.4	④ 簿記関連	13. 記帳の手段	手書きメモ	16	100.0				
		兼業農家	17	58.6			合計	16	100.0				
		合計	29	100.0			14. 簿記様式	単式で収支を帳簿する	16	100.0			
	4. 年間収入額	100万円未満	10	34.5		合計		16	100.0				
		100万円～250万円	9	31.0		15. 記帳していない理由		記帳することが難しい	3	23.1			
		250万円～500万円	7	24.1			記帳するメリットが少ない	2	15.4				
		500万円～750万円	3	10.3			面積が狭い	7	53.8				
		合計	29	100.0			税務調査に用いるため	1	7.7				
	5. 年間支出額	100万円未満	10	34.5			会計士を雇うお金がない	1	7.7				
		100万円～250万円	9	31.0			今までの経験から経営状態が把握可能	5	38.5				
250万円～500万円		7	24.1	知識ない	1	7.7							
③ 小麦栽培の取引	500万円～750万円	3	10.3	④ 簿記関連	16. 農業経営における	合計	13	100.0					
		合計	29			100.0	現金取引	29	100				
		6. 年間収入取引回数	1回			9	31.0	掛売買取引	23	79.3			
	2回～3回		15		51.7	振替取引	21	72.4					
	4回以上		5		17.2	物々交換取引	5	17.2					
	合計	29	100.0		合計	29	100.0						
	7. 1カ月間の支出取引回数	10回～15回	4		25	出所：聞取調査に基づき作成。 注1：設問7は簿記記帳している16戸に対する設問である。 2：設問15、16は複数回答である。 3：1、2…、16は設問番号である。	10. 簿記の知識	知識がある	16	55.2			
		15回～20回	1		6.3			知識がない	13	44.8			
		20回～25回	1		6.3			合計	29	100.0			
		無回答	10		62.5			11. 記帳の実践	現在記帳している	16	55.2		
合計		16	100.0	現在記帳していないが、これから記帳するつもりである	2				6.9				
8. 未収入金	未収入金月ある	5	17.2	以前簿記記帳していたが、これから記帳するつもりはない	1		3.4						
	未収入金がない	24	82.8	現在記帳していないし、これから記帳するつもりはない	10		34.5						
	合計	29	100.0	合計	29		100.0						
9. 負債	長短期負債がある	21	72.4	12. 記帳している理由	経営状況を把握し、改善するため		4	25.0					
	負債がない	8	27.6		無回答		12	75.0					
	合計	29	100.0		合計	16	100.0						

①自計式農家経済簿記の現金現物日記帳

①日計式農家経理簿記の現金取引日記帳										
摘要		現金取引								
		収入			支出				残金	
		種目	所得的収入	財産的収入	種目	所得的支出	家計支出	財産的支出		
前月				円				円	円	3,000
10kg小麦を掛売	小麦	5,000			未収				5,000	
20kg肥料を掛買	未払			2,000	肥料	2,000				
10kg小麦の掛売金を回収	未収			5,000						8,000
小計		5,000		7,000		2,000			5,000	8,000

②小麦栽培農家経済簿の現金現物日記帳

摘要		現金取引													残金		
		収入						支出									
		種目	所得的収入		財産的収入			種目	所得的支出				家計支出	財産的支出			
			掛売収入	その他	売掛金清算	買入による未払金	その他		掛買支出		その他	買掛金清算		掛売による未収入金		その他	
		円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円		
前月																	
10kg 小麦を掛売	小麦	↓5,000															
20kg肥料を掛買						2,000								↓5,000			
10kg 小麦の掛売金を回収	未収			↓5,000													
小計		5,000		5,000		2,000		2,000						5,000			
															8,000		

出所：菊地（1986）農業会計学，聞取調査結果に基づく。
注：生産物家計仕向と日付，数量を除いて作成。

第2図 現金現物日記帳の改良

3. 自計式農家経済簿の改良

第1に、帳簿形式の改良についてである。主要簿である現金現物日記帳について、次の2つの改良を加えている。その1として、聞取調査において、現金取引のほかに掛売買取引が多かったので、第2図に示すように掛売買取引のために特別欄を設けている（第2図の②の「掛売収入」「売掛金清算」「掛買による未払金」「掛買支出」「買掛金清算」「掛売による未収入金」）。この特別欄を設けることによって、次のメリットがある。①掛売買取引を記録するときに「種目」欄に未収入金、未払金の記入が不要になることである。②「合計」欄を計算することによって、おおまかであるが、未収の売掛金（ \div 「掛売による未収入金」－「売掛金清算」）、未払いの買掛金（ \div 「掛買による未払金」－「買掛金清算」）が把握できる。未収入金、未払金の正確な把握については、次の現金現物日記帳月別集計表で述べる。その2として、小麦栽培が基幹部門のために、生産部門分析、生産費計算を正確に行って、経営改善に結びつける必要がある。このために「所得的支出」欄に「小麦（栽培）」欄を設けている（第2図の点線で示す楕円形）。

第2に、現金現物日記帳月別集計表の改良についてである。上述したように現金現物日記帳を改良したことによって、現金現物日記帳月別集計表は第3図のようになる。この月別集計表によって次のことが可能になる。すなわち、その1として、前年からの掛売による未収入金繰越¥1,200（第3図の①）＋当期の「掛売による未収入金」年計¥3,946（同②）－「売掛金清算」年計¥2,600（同③）という計算によって、当期の売掛金の未収金残高¥2,546が把握できる。この残高が翌年の「掛売による未収入金」（繰越）となる。その2として、前年からの掛買による未払金繰越¥800（同④）＋当期の「買掛による未払金」年計¥2,295（同⑤）－「買掛金清算」年計¥1,075（同⑥）という計算によって、当期の買掛金の未払金残高¥2,020が把握できる。この残高が翌年の「掛買による未払金」（繰越）となる。その3として、「所得的支出」欄にある「小麦」欄2カ所の「年計」から小麦栽培における費用に関連する支出額がわかる。

第3に、分析方法の検討である。本研究では、家計経済部面の分析を充実させている。すなわち、自計式簿記の家計経済部面の分析指標は第3表に示すとおり8つであるが、小麦栽培自計式簿記では、家計費に注目して分析指標を3つ加えている。新しい分析指標の意味は次のとおりである。その1として、随意的消費率である。消費支出を①生活に必ず必要な必需的な消費と②所得水準に影響を受ける随意的消費とに分けて消費支出に占める割合をみると、生活水準が明らかになる。必需的性格の強い費目は住居、保健、医療費、光熱水道費、飲食費である。随意的性格が強い費目は教育費、被服および教養娯楽費である。生活水準が高くなるに伴って、この分析指標の値は高くなる傾向にある。その2として、エンジェル係数である。これは消費支出に占める子供の教育費の割合である。所得水準の増加に伴って、この分析指標の数値は逡増する傾向にある。その3として、平均消費性向である。可処分所得に占める家計費の割合である。一般に平均消費性向は所得の増加に伴って逡減する傾向にある。

現金取引																				生産物家計 仕向	
月別	前期から 繰越	収入					計	支出											翌月へ 繰越		計
		所得的収入		財産的収入				所得的支出				財産的支出									
		掛売 収入	その他	売掛金 清算	掛買による 未払金	その他		掛買支出		その他	家計支出	買掛金 清算	掛売による 未収入 金	その他							
								小麦	その他						小麦	その他					
前年					(4,801)			小麦	その他	小麦	その他			①1,200		3,500					
1	3,500	300	450	200	150	1,180	5,780	30	120	40	110	370	65	300	400	4,345	5,780				
2	4,345	46	500		55	70	5,016		55	10	35	600	40	46	200	4,030	5,016	4,000			
3	4,030		650		280		4,960		280		125	410	140		60	3,945	4,960				
4	3,945		450	500	430		5,325	300	130			270				4,625	5,325				
5	4,625		500		630		5,755	560	70			300				4,825	5,755				
6	4,825		500			200	5,525					350			2,500	2,675	5,525	2,000			
7	2,675		450				3,125					400				2,725	3,125				
8	2,725		700		150		3,575		150			400				3,025	3,575				
9	3,025	3,000	450		400		6,875	400		250		120		3,000	800	2,305	6,875				
10	2,305		450	1,000		100	3,855				300	280	630			2,645	3,855	3,000			
11	2,645	200	500	200	200		3,745		200			540	200	200		2,605	3,745				
12	2,605	400	450	700			4,155					320		400		3,435	4,155				
年計	3,500	3,946	6,050	③2,600	⑤2,295	1,550	19,941	1,290	1,005	300	570	4,360	⑥1,075	②3,946	3,960	3,435	19,941	9,000			

出所：聞取調査に基づき作成。

第3図 現金現物日記帳月別集計表

第3表 家計経済部面における分析指標

区分		分析指標	計算式
自計式簿記の分析指標	家族と財産に関するもの	家族就業者率	就業家族数÷家族総数
		農業就業率	家族農業労働日数÷家族総労働日数
		家族1人当たり農家財産	農家財産÷家族総数
	所得に関するもの	家族1人当たり農家所得	農家所得÷家族総数
追指加標した	家計費に関するもの	家族1人当たり家計費	家族負担家計費÷家族総数
		農業所得の家計費充足率	農業所得÷家族負担家計費
		エンゲル係数	飲食費合計額÷家計費総額
		飲食費自給率	飲食費家計仕向額÷飲食費合計額
追指加標した	家計費に関するもの	消費支出に占める随意的消費率	選択的支出額÷消費支出
		エンゲル係数	教育費÷消費支出
	所得に関するもの	平均消費性向	家計費総額÷可処分所得

出所：菊地（1986），江見・伊藤（1997）に基づき作成。

4. 小麦栽培農家経済簿の普及と改良

普及と改良のための活動は、時系列で示すと次のとおりである。まず、2016年12月に国立モンゴル生命科学大学において、8戸の小麦栽培農家に記帳研修を行った。第2に、この簿記を改良するために2017年6月に2戸に聞取調査結果を実施したが、「記帳はやさしい」という評価であった。改良点はない。第3に、普及のために2017年12月から2018年12月までに約20戸の小麦栽培農家に記帳研修を実施している。また、同時に1年間（2016年12月～2017年11月）の記帳結果3戸を回収して農家経済分析を行っている。

注釈

1) 北海道の農家耕地面積が30ha以上の1経営体当たりの農業所得は1千万円以上である。

引用文献

- 家串哲生. 2015. 日本における農業簿記・会計思想史に関する考察—大槻正男自計式農家経済簿—, 農林業問題研究.
- 江見康一・伊藤秋子. 1997. 家庭経済学. 有斐閣. 57-99. 東京.
- 桂利夫. 1990. 自計式農家経済簿の様式改訂に関する考察 (I). 農業計算学研究. 22: 23-32.
- 菊地泰次. 1986. 農業会計学. 明文書房. 東京.
- 城戸宏之. 1991. 基礎からよくわかる商業簿記2級. 旺文社. 東京.
- 古塚秀夫. 1993. 自計式農家経済簿の特徴. 農業計算学研究. 26: 19-26.
- モンゴル農業省. 小麦の収量. 小麦の輸入についてと統計データ. (<http://mofa.gov.mn/exp/blog/8/69>)
2017年9月26日.
- 農林水産省. 「経営形態別経営統計」農家の経営耕地面積規模別の農業所得について (平成26年販売農家1経営体当たり) (<http://www.maff.go.jp/hokkaido/policy/jyousei/pdf/201607zenbun.pdf>)
2019年1月28日.